



神戸学園都市



ワイズメンズクラブ

THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2020年6月（通巻312号）

< 主題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：杉本隆人：「広げようワイズの和、令（秩序）をもって」
- ・国際会長：Jennifer Jones(オーストラリア)：「Building today for a better tomorrow」
- ・アジア太平洋地域会長：田中博之（日本）：「アクション！」
- ・西日本区理事：戸所岩雄（彦根シャトー）：「風となれ、ひかりとなれ」
- ・六甲部長：柏原佳子（芦屋）：「スピナーカーの帆に風を集めて」
- ・2020年6月強調活動：評価と引継ぎ：戸所岩雄 理事（彦根シャトー）
「定めたゴールの達成度を評価し、次期へ繋がる形で正確に引継ぎをしよう。」

6月第1例会

- ・日時：2020年6月18日(木)19:00~21:00
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：開会点鐘
DVD鑑賞「灯籠流し」
報告
閉会点鐘

< 今月の聖句 >

「皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。」
(コリントの信徒への手紙1 12章 29節)

6月誕生者おめでとう

該当者なし

5月の出席状況

第一・第二例会休会

5月累計ファンド成績

- ・CS(年賀切手) 6,300円
- ・TOF(断食) 5,880円
- ・FF(家庭の断食) 3,360円
- ・BF(古切手) 6,300円
- ・東日本募金 19,600円
- ・Yサ・ASF 28,000円

[役員] 会長：杉本隆人、直前会長：田辺征一、書記：田辺征一、会計：中村 剛、連絡主事：達 直樹

[委員] 地域奉仕・環境：森本哲男、Yサ・ユース：内田邦彦、交流：合田純二、ファンド：野呂 隆、

丹家元陽、EMC：野呂隆、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：藤井久子、杉本裕子、メール委員：田辺征一、

[六甲部役員] メネット事業主査：藤井久子

[IBC]台湾高雄ポートクラブ（2004年1月締結）

[DBC]東京武蔵野多摩クラブ（2011年6月締結）

[DBC]岡山クラブ（2018年6月締結）

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470

事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

<会長通信第11号>

会長 杉本 隆人

会長を交代するにあたり

新星の柴田ワイズが次期会長を受けてくれたのは、本当に嬉しく思っておりましたが、このコロナ渦のお陰で、柴田ワイズは、仕事のシフトが変わったことと責任重大な立場となり、時間調整がつかない状況下になりました。しかし、しっかりやらせてもらいますとの返事をいただきました。お互いに支えながらやりましょう、と誓い合い、来期もワイズライフを楽しめそうです。

今期の正月から2月までを境に、我々のワイズ活動が一変してしまい、役員会、事務例会、定例例会が開催できないというかつてない経験をしました。西日本区大会中止、第二回評議会中止、記念例会中止と西日本区、六甲部は機能不全となってしまいました。今さらながら、みんなの力で成り立っているワイズメンズクラブなんやと深く考えさせられました。

会長を退任するにあたり、今期は、自分なりにプログラムを考えて、公開例会、クラブ内での親交、他クラブとの交流、台湾の高雄ポートクラブとの交流、岡山クラブとの交流とYMCAとの協働と多岐にわたり活動してきた中で、3月から今日までの3ヶ月間、我慢、我慢の期間となりストレスが堪り、仲間とのノミネーションがいかに大切かを痛切に感じました。(笑)

プログラムについては、少し心残りとなりましたが、みなさまのお陰をもちまして任期を終えようとしております。本当に、本当にありがとうございました。来期は、次期会長を支えていきたいと思っております。感謝

<6月事務例会報告>

日時：2020年6月4日(木) 19:00~20:35

場所：西神戸YMCA 学園都市

出席者：内田、杉本、田辺、丹家、中村、仁科、野呂、森本、横山

(1) 次期役員選定

会長	柴田 昌一
会計	中村 剛
Yサ主査・書記	杉本 隆人
連絡主事	横山 徹太郎
Yサ・ユース	森本 哲男
交流	隠樹 圭子

地域奉仕	内田 邦彦
EMC	藤井 久子
ファンド	丹家 元陽、仁科 拓巳
広報・ブリテン	田辺 征一
メネット	合田 純二
メール委員	田辺 征一

- (2) ロースターの最終チェック(初稿確認)
- (3) 6月例会開催(学園都市YMCAが休館しない限り開催)
- (4) 来期の活動方針と役割分担
できれば前期プログラムを具現化することと、会長方針に伴い会員同志が共通認識し、活動計画(提案)を協議していく。
- (5) 今後のブリテン発行方針の確認
田辺より次の依頼・確認がなされた。
 - ・第3木曜の第一例会でブリテンを配布、欠席者には当月中に郵送。
 - ・毎月の掲載記事は「西日本区強調月間活動」「第一例会プログラム」「『今月の聖句』と解説」「誕生者」「当月の事務例会報告」「前月の例会出席状況」「前月の第一例会報告」その他、旅行記など会員からの寄稿
 - ・メンバー全員が持ち回りで第一例会報告を担当することが要望された。
 - ・任意の投稿はいつでも大歓迎
 - ・原稿締め切りは第一例会前の日曜日
- (6) コロナ対策
六甲部第一回評議会は、文書で行われる予定。西日本区の前期会費免除が提案がされているが、当クラブは前期会費を徴収する。
- (7) YMCAよりの支援要請について
六甲部全体で、400万円の支援要請が総主事よりなされた。これを受けて、当クラブの献金額を決定。
- (8) YMCAよりの報告
 - ・神戸YMCAから学生生活支援募金および支援物質の寄付要請がされている。ワイズ各自で対応することを確認。
 - ・西神戸YMCAのウエルネス活動、神戸YMCA学院、幼稚園・保育園の現状について報告された。

『灯籠流し』(Paper Lanterns)について
歴史研究者の森重昭さん(1937年生まれ)は、被

爆に関する証言者を訪ね歩く中で、12人の米兵捕虜が被爆死していることを知りました。会社勤めの傍ら、一人一人の足跡を丹念に追ひ、記録し、その遺族を探し出しました。

アメリカのオバマ前大統領は2016年5月27日、現職大統領として初めて被爆地・広島を訪問。歴史的なスピーチの中で感謝を伝え、森さんに歩み寄り抱擁しました。

2016年第64回菊池寛賞、2017年日本記者クラブ特別賞を受賞。

昨年6月のワイズメンズクラブ東日本区大会の記念講演で森重昭さんは、戦争の悲惨さと平和の尊さを、被爆者でもあるご自身の体験を通して篤く語られ、多くの方々に感動を与えました。国と国との間に起った戦争という悲劇を、

人はどのように乗り越えることができるかという大きな問いに向き合うものです。森さんは国連などで「原爆犠牲者に国境は関係ない」との信念から、講演を続けてこられました。



< 今月の聖句 >

**「皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。
皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。」**
(コリントの信徒への手紙1 12章 29節)

ある本の中に「奇跡」という物語があります。一人の求道者が、ある遠い国には奇跡を行う人がいると聞き、その人を訪ねました。海を渡り、山を越え、はるばる小さな国へやってきて聞きました。「あなたの国にいるあの有名な人は、いったいどんな奇跡を働かれたのですか」と。すると人々は答えました。「ああ、この国には奇跡ならいくらでもありますよ。奇跡もいろいろなものがあります。あなたの国では、神がだれかある人の望みを行われると、それを奇跡と呼ぶのでしょうが、この国では、人が神のみ旨を行ったとき、それを奇跡とよぶのです」と。私たちが考える奇跡って何でしょうか。私が望むことを神様が聞いてくださり、それが行われたことをいうことでしょうか。私が望むように病気がなおったとか、私が望むように人が生き返ったとか。そのような奇跡は少ないものです。しかし、本当は人が神様のみ旨を行ったとき、それが奇跡というのなら私たちにもできるような気がします。そのように生きている毎日が奇跡そのものなのだ。ワイズライフも「奇跡」がいっぱいですよね。

西日本区チャプレン立野泰博（熊本ジェーンズ）

西日本区理事通信 2020年5月号から転載